

令和4年6月14日開会

# 市長施政方針



パンデミックは、これまで私たちが経験したことの無い脅威でした。そして、この脅威は恐怖を連鎖させ、結果、私たちを「分断」しました。

まずは、「日常からの分断」です。毎日の当たり前の活動ができなくなりました。子供たちの楽しい給食の会話すらなくなりました。

さらに、「ふるさとと家族の分断」です。お盆や暮れや正月に暖かく食卓を囲むことも、成人式やお祭りで久しぶりに交友を深めることもできなくなりました。

そして、何よりも「心の分断」です。感染症の特殊性と新しい特別な病気ということで情報が氾濫し、私たちの心を襲いました。必要以上の恐怖が差別や過剰な反応を多く生み出し、経済活動を萎縮させました。

ただ、私たちむつ市民は、この分断を「結束」で乗り越えました。

どの自治体よりも詳しく正確な情報発信を軸に、一人ひとりが感染状況を正確に理解し、対策を実施して日常を変え、慎重に慎重を重ねてふるさとむつ市を守る観点から帰省を検討し、恐怖を乗り越えて感染者にはいたわる気持ちを持つことができているのではないのでしょうか。

ワクチンの接種では、全ての医療従事者の結束とそれに協力する市民の皆様の対応で、プロジェクトGの名にふさわしい対応ができたと自負しています。国が東京や大阪で自衛隊を動員して行う規模の接種事業を、むつ市は単独で市民力で実現することができました。

もともと、むつ市は感染症には非常に弱い地域です。季節性インフルエンザの流行を見ると、2019年ベースで青森県内の16%がむつ市で発生しています。これを新型コロナウイルス感染症に当てはめると、9,400人程度が感染していてもおかしくないところを、現状は1,475人、6分の1程度となっています。

実際に、私たちは忠実に感染対策を実施し、成果を挙げているのです。

今、このコロナ禍を振り返って、なぜ私たちが乗り越えられたのか、

改めて考えてみると、たった一つのことだと考えています。たった一つのことがあったからこそ、今、感染症としてのコロナを乗り越えつつあります。

それは、「信頼」です。

市役所と市民の皆様との信頼、市民の皆様同士の信頼、そして市当局とむつ市議会との信頼です。

景気・経済の分野では、まだまだコロナの対応は続いています。ただ、私たちの「信頼」でこれからの難局も乗り越えられると今は確信しています。

今回の公約集には「みんなで進む明日のむつ市」「There is always light behind the clouds」「進もう。前へ。」と想いを記載しました。

この中で「There is always light behind the clouds」とは、「雲の向こうはいつも青空」という意味です。

市政がいつも青空のように晴れ渡るとは限りません。むつ市が世界の一部である以上は、世界の大きな潮流に飲まれていきます。コロナ、ウクライナ情勢、円安、原油高、そして災害。曇り空が続いても、私自身はその向こう側の青空をいつも信じて、みんなで明日のむつ市へ進んでいきます。

「進もう。前へ。」「前へ。進もう。」

市政前進を、議員の皆様、そしてラジオをお聞きの市民の皆様、全ての皆様にお誓い申し上げ、第18代むつ市長就任に当たっての所信の一端とさせていただきます。

皆様、どうぞ引き続き、むつ市政への御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年6月14日

第17代むつ市長 宮下 宗一郎